

報告・資料

療養病床を有する病院で行われる季節行事の現状

石田 千賀子*

Some positive effects of seasonal events at hospitals for long-term inpatients: An interview and questionnaire study

Chikako Ishida

Abstract

Hospitals with long-term inpatients often hold some seasonal celebrations such as Christmas or a summer festival.

In this study, eight staff members from six hospitals (mainly head nurses) were interviewed to determine how such events are programmed and performed in selected hospitals. In addition, 68 people who had experienced hospitalization or who had a close family member hospitalized were asked about their impressions of the seasonal events they had encountered.

The results showed that such events had positive effects for both inpatients and hospital personnel. The events were mainly planned to improve the monotonous hospital environment and stimulate patients, but also improved the motivation of hospital personnel. However, the results also suggested that some negative effects of these events were possible, such as nosocomial infections.

Overall, this study concludes that seasonal events in hospitals generally have positive effects and should be promoted, but potential negative side effects should also be considered.

Key words: seasonal events, hospitals, long-term inpatients, environment

1. 問題と目的

現代医療によって生命の危機から抜け出す患者が増えた。一方で、重症でありながら生命を維持することも可能になることで、日常生活の自立ができるまでには長期間の入院を必要としている患者が増えている。近年、入院日数は全体的には減少傾向を示しているが、療養病棟においては、若干減少しているとはいえ横ばい傾向で、平成28年では152.2日と依然として長い入院が必要である(厚生労働省, 2016a)。病院で最期を迎える人は、近年では8割にのぼる(政府統計の総合窓口,

2018)。そのため、入院患者の生活環境を良好に維持することは、看護の現場にいる者にとって重要な課題であり、入院という限られた生活の場でQOLを向上させる必要があろう。そのための一つの方法として、入院生活の中に季節行事を取り入れることが考えられる。

実際に季節行事は、高齢者施設、小児病棟、緩和ケアなどにおけるケアの一つとして多く取り入れられている。高齢者施設における余暇活動の研究では、季節行事が、人との関係での楽しさや喜びを見出すことができる、QOLを向上させる余暇活動(レクリエーション活動)として行われて

* 医療法人 協和会 協立温泉病院 (Kyoritsu Onsen Hospital, Kyowakai, Medical Corporation)
受領2017.10.10 受理2019.3.9

いることが示されている（森山・土井, 2009）。また、小児の入院環境に関する研究では、入院生活の遊び環境として提供している季節行事が、最善の看護支援の一つであることが示されている（荒木・佐藤, 2012）。緩和病棟における研究では、患者の7割が院内における季節行事の実施を肯定的に捉えており、その理由として「季節を味わうことができた」「職員や他の患者との交流ができた」ことが挙げられている（Matsushima, Akabayashi, Slingsby, and Nishitaten, 2007）。

このように季節行事は、高齢者施設、小児病棟、緩和ケアなどで取り入れられ、ポジティブな効果があることが示されているが、療養病床における意味合いはほとんど調査されていない。季節行事は、入院患者にとって肯定的な側面が多いと思われるが、一方病院職員にとっては否定的な側面があると考えられる。なぜなら、院内で季節行事を行うためには、患者の病状管理や、感染対策、医療安全対策、騒音への配慮を行う必要があり、病院職員は、日常業務を通常どおりに行った上で、さらに季節行事を準備し実行せねばならないからである。

本研究では、療養病床を有する病院で実施されている季節行事の現状について把握するとともに、季節行事に対する病院職員の評価を知ること

を目的とした。また、補完的に、入院歴のある者、家族に入院歴のある者を対象に、入院中に経験した季節行事について評価を求めることにより病院職員の評価と患者側の評価に齟齬があるかどうかを検討した。

Ⅱ. 調査方法

1. 用語の定義

1) 季節行事

本研究では、毎年特定の時期に催される季節の行事を「季節行事」とした。主要な季節行事について、日本全国で広く一般に行われるものとして、正月、節分、ひな祭り、七夕、夏祭り、クリスマスを選んだ。この他誕生日も、個人にとっては毎年特定の時期に巡ってくるものであることから、季節行事に加えた。本研究では、これらの7つを季節行事として取り上げた。

2) 療養病床

本研究では、療養病床を、長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床を持つ療養病棟（厚生労働省, 2016b）、回復期リハビリテーション病棟（厚生労働省, 2015）とした。また、緩和ケア病棟は、平均在院日数は32.7日（五十嵐・

表1 調査協力病院および調査協力者

病院・病棟種別		病床数	調査協力者
A 病院	回復期リハビリテーション病院	144 床	患者サービスを担当する理学療法士 1 名
B 病院	回復期リハビリテーション病院	180 床	看護部長 1 名
C 病院	回復期リハビリテーション病院	120 床	看護部長 1 名
D 病院	回復期リハビリテーション病棟 緩和ケア病棟 一般障害者・療養病棟 産科・小児科病棟	425 床	看護部長 1 名
E 病院	回復期リハビリテーション病棟 認知症病棟 一般障害者・療養病棟	465 床	看護部長 1 名 看護次長 1 名 患者サービスを担当する看護師 1 名
F 病院	回復期リハビリテーション病棟 療養病棟	210 床	看護部長 1 名

宮下, 2017) と療養病棟における平均在院日数より短い、療養を行う病棟であるため、療養病床に含めることとした。

2. 調査1：病院職員の季節行事に対する評価

1) 調査協力病院および調査協力者

調査協力病院および調査協力者については表1に示す。調査協力者は、調査の趣旨に基づいて、病院側が選定した職員である。

2) 調査期間および調査方法

調査期間は2016年7月～10月である。調査は、1対1の面接もしくは電話のいずれかで回答を得た。調査の方法は原則として半構造化面接としたが、時間がとれない等の理由で、B・C病院は電話での聞き取りを行った。

3) 調査内容

調査内容は以下の6項目である。患者向けに行われている季節行事の現状として、1. 正月、節分、ひなまつり、七夕、夏祭り、クリスマス及び、誕生日の季節行事の実施状況（これら以外の季節行事の実施の有無も含む）、2. 各行事の詳細：目的、内容（催し・装飾・行事食など）、場所、準備期間、主催者、行事に関わる人員等について尋ねた。さらに、実施者としての職員による行事の評価として、3. 行事が患者に与える効果、4. 行事が職員に与える効果、5. 実施上の留意点と課題について尋ねた。

4) 倫理的配慮

調査協力者である看護部長等に対して、研究目的、研究への協力は任意であること、本研究が学術的研究であって営利とはかかわらないこと、調査協力者および入院患者の個人の特定が可能な形での公表は行わないこと、調査結果を調査協力病院にフィードバックすること等について口頭およ

び説明用紙を用いて説明し、同意を得てから聞き取り調査を行った。

3. 調査2：患者の季節行事に対する一般的評価

患者側の評価については、調査の対象となった病院の季節行事を評価することが目的ではなく、病院で行われる季節行事に対する一般的な患者の認識を知ることが目的として、本人あるいは家族に入院経験がある者に対して調査を行った。

調査は2016年8月に実施した。調査協力者は、研究者が所属または関係しているG大学H学習センターの学生28名とI市の女声合唱団の団員他44名の計72名である。調査方法は、無記名の自記式質問紙を用い、研究者が配布し、その場で回収した。調査内容は、1. 本人または直近の親族の入院歴の有無、2. 入院中に遭遇した季節行事の種類、3. 当該季節行事に対する評価である。評価は、「非常に楽しい」～「非常に不快」の5件法で回答を得た。調査への回答を依頼するにあたって、回答は任意であること、結果は件数や割合で示されるため、個人が特定されないことがないことを説明し同意を得て行った。

Ⅲ. 結果

1. 療養病床を有する病院において実施される季節行事の現状

1) 季節行事の実施状況

病院内で現在実施されている季節行事の件数と実施場所について表2にまとめた。現在、季節行事は「節分」を除く6つの行事が行われており、これら以外の季節行事は行われていなかった。

催しの場所は、リハビリ室、病院駐車場、病棟玄関、病棟の食堂スペース、病棟フロア等、院内の広いスペースであった。玄関ロビーに大きな飾り付けを行っている病院は、6病院のうち4カ所

表2 6病院の季節行事実施病院数

行事名	催し実施数	催しの実施場所	装飾実施数	装飾の場所
クリスマス会	6	食堂・病棟ロビー(3) 各病棟(1) リハビリ室(1) 緩和ケアフロア(1)	6	玄関ロビー(2)・各病棟(6)
七夕	5	各病棟(5)	6	玄関ロビー(1)・各病棟(5)
夏祭り	3	食堂・病棟ロビー(1) リハビリ室(1) 駐車場(1)	1	病院内全体(1)
正月	2	病院内廊下(1) 各病棟(1)	5	病院玄関前・ロビー(4)・各病棟(3)
ひなまつり	0		5	玄関ロビー(2)・各病棟(3)
節分	0			
誕生日	0			

() 数字は実施病院の数

装飾の場所は、1病院に対して複数箇所ある場合があるため、催し実施数と装飾実施数は異なる。

であった。飾り付けは、クリスマスツリー・七夕の笹飾り・門松・ひなまつり段飾りなど、季節行事のシンボルであり、病院の景観として取り入れていた。

2) 各行事の詳細

クリスマス会は、全ての病院で実施していた。各病院とも趣向をこらし、華やかにイベントを行っていた。病棟単位で実施している場合は食堂で、職員が音楽、踊りを披露していた。装飾品作りや展示は、患者のリハビリテーション・レクリエーションを兼ねて一緒に行うところもあった。病院内全体の行事として行われている場合は、リハビリ室などの広い場所を使い、希望する患者に見学させていた。A病院では、職員によるクラブ活動のジャズバンドや音楽療法士の演奏を披露していた。C病院では、音楽を提供するときの使用楽器はハンドベル・オルガンで、クリスマス音楽の雰囲気を出していた。また、演奏する曲について入院患者の同意をあらかじめ得ていた。これは、演奏曲によって入院患者が不快な体験をしないようにとの配慮である。D病院では、緩和ケアフロアでコンサートが行われ、希望した患者が参

加していた。E病院では、病院のイルミネーション(点火式もある)を行っていた。また、新人職員が病院内を巡回し、練習した歌や手話を披露していた。C・E病院では、職員の子どもの成長に伴い必要でなくなったクリスマスツリーなどの装飾品を、病棟へ提供し飾っていた。病院託児所があるC・E・F病院では、託児所の園児たちが、歌や遊戯の披露でクリスマス行事に参加していた。F病院では院外ボランティアの参加があった。B・C病院では、職員の手作りのメッセージカードを患者に渡していた。

七夕は、B・C・D・E・F病院の5カ所で催しを実施していた。実施場所は病棟単位で、短冊に願い事を書くことや笹に短冊を飾ることがレクリエーション・リハビリテーションの一環として行われていた。C病院では、託児所の園児たちが短冊を作成していた。A病院では近くの神社から笹をもらい、その笹を利用して玄関ロビーの吹き抜け部分に大きな笹飾りを設置していた。

夏祭りは、A・D・E病院の3カ所で実施していた。実施場所は食堂、病棟ロビー、リハビリ室、駐車場であった。A病院では、リハビリ室で、病院内クラブ活動の太鼓の演奏が行われていた。D病院

では、駐車場に櫓を建て、櫓の周りで盆踊りが行われていた。E病院では、職員が、提灯飾りや夏祭りに纏わるポスターの作成などで病院内を装飾し、新人職員や院内保育所の園児たちが病院内を巡回し、約1ヶ月練習した踊りを披露していた。また、A・D病院では夏祭りらしさを演出する催しの一つとして、「ヨーヨー釣り」を行っていた。

正月行事については、A病院とF病院で実施されていた。A病院では、1月7日にリハビリ科の職員が獅子舞を踊り、看護部長が笛を吹き病棟を廻る催しがあった。F病院では、職員の手作りのメッセージカードを、病院全体の行事として患者に渡していた。また、6病院のうち5カ所では、行事食としてお餅やおせちに似たものを提供し、6病院のうち4カ所では、病院玄関前やロビーに門松等を置いていた。

ひなまつりは、C・Fの2病院が、玄関ロビーにひな人形段飾りを置いていた。

節分については、全ての病院で特別な催しは行われていなかった。E病院では、かつては、鬼(患者サービス委員会が担当)が院内を巡回し、新聞を丸めた物を豆にみたて、患者が鬼に投げるといった行事が行われていたが、2013年より中止となった。中止の理由は、2月はノロウイルス・インフルエンザ流行の時期と重なり、職員の巡回による感染の拡大が危惧されたからであった。

誕生日の行事について、E病院では、患者や患者の家族に同意を得て、担当看護師と患者の写真入りの誕生日カードを送っていた。しかし、2015年から職員の多忙さから、催しを続けることが困難になり中止になった。C・F病院では、誕生日会を行っていない。A・B・D病院は、病棟ごとの活動については不明との回答であった。

なお、季節行事の主催は、いずれの病院においても患者へのサービスや接遇を担当する委員会で行われていた。

2. 病院職員の季節行事に対する評価

1) 行事が患者に与える効果

行事が患者に与える効果のポジティブな側面は、主として「季節感が感じられること」「単調さを改善すること」が効果としてあげられた。

「季節感が感じられること」については、「季節行事の取り組みについて、患者は入院時期のタイミングによって異なった行事に関わるため、その時々で楽しんでもらうことができるように、常によりよいものを提供するように心がけている。季節感を味わってもらいながら、和みの場として少しでもリラックスできる環境の提供を行っている。(A病院・理学療法士)」「長期療養の患者が多く、生活の場の延長として季節感を味わってもらうために、病棟ごとに季節行事にまつわる装飾を行っている。(B病院・看護部長)」「自宅に近い雰囲気を持ってもらう。和みの場を提供し、季節感を味わってもらっている。(C病院・看護部長)」「寝たきりで動くことが出来ない患者や、様々な背景をもつ患者に対して、派手なことはできないが、季節感を含めた華やいだ雰囲気を味わってもらうことが出来ていると思っている。(E病院・看護部長)」といった回答があった。つまり、変化の少ない病院で患者に季節感、和みやリラックス感を感じてもらうことで、健康な時の生活を思い出してもらえることができるといった効果が示された。

「単調さの改善」について、「非日常を味わってもらうことも目的としている。(A病院・理学療法士)」「季節行事を行うことは、患者に刺激を与える効果がある。(C病院・看護部長)」「単調な入院生活を避け、非日常を味わってもらい、入院生活に潤いをもたらすようにしている。(F病院・看護部長)」といった、患者は季節行事によって非日常感を感じることができ、それによる刺激や生活の潤いがもたらされていた。

他に、「意識障害の患者については、快か不快

かの判断はつきにくいですが、緩和ケア病棟では多目的ホールでのコンサートを喜んでもらっていると思う。(D 病院・看護部長)」また、「保育所の園児の参加については、高齢者が園児たちをみているとき、肯定的な感情を向上させていると思う。(E 病院・看護部長)」と回答があった。さらに、「自宅に近い雰囲気を持ってもらい、生活感を味わうことで在宅復帰への励みにしてもらいたいとも思っている。(F 病院・看護部長)」との発言から、季節行事は、「季節感」「非日常」といった刺激を与え、「和み」や「自宅での生活を想起させる」といった環境作りができることにより、「在宅復帰への意欲」につながる可能性が示された。

ネガティブな側面としては、催しを行うことで発生する「騒音」があげられる。「単調な生活を避けるために季節行事を行っているが、患者が欲しているかは半々ではないか。また、体調が悪いときは、静寂を求めている患者も多いはず。(D 病院・看護部長)」と回答し、また、「容体が悪い患者やその家族に賑やかな音楽が聞こえると思うと、いいのかな、大丈夫かなと思っている。(E 病院・患者サービス担当の看護師)」と回答していた。

2) 行事が職員に与える効果

行事が患者に与える効果のポジティブな側面は、「職員の連帯感」「仕事に関する動機付けの向上(自己肯定感向上、主体性の育成)」, その他「副次的効果として園児の成長の実感」が効果としてあげられた。

「職員の連帯感」について、「行事を行うことは何より患者を喜ばせるための物であるが、イベントを行うことの延長に職員の連帯感を持たせる働きがあるとも考えている。(A 病院の理学療法士)」と回答していた。

「仕事への動機付け向上」について、「季節行事に対して、関心のある人、ない人さまざま。しかし行事を終えれば、やり終えたことにポジティブ

な感情が出ていると感じている。新人職員が患者の前で踊りや歌を披露することは、いつも先輩の陰に隠れて仕事をしているけれども、自分自身が主体的に患者にケアをする機会であり、新人職員にとって大きな利益になっていると思う。(D 病院・看護部長)」と回答があり、特に新人職員に対する効果が大きいと述べていた。さらに、「季節行事の催しは有志中心が行っているため、自由度が高く、職員から苦情が出ることはない。催しによって、患者が楽しんでいる様子を見て、職員は自己肯定感を向上させ、モチベーションアップにも繋がっている。(C 病院・看護部長)」季節行事については、積極的に行う職員もいれば、余計なことと思っている職員もあり個人差がある。しかし、行事が終われば肯定的に感じていると思う。(F 病院・看護部長)」と回答していた。D・F 病院において、個人差を認めたとうえで、大きく見ればポジティブな効果があると答えていた。

これらとは多少異なった視点であるが、「副次的効果として園児の成長の実感」が、職員に与える効果としてあげられる。保育所を併設している E・F 病院では、「病院の保育所に園児を預けている病院職員の親たちは、クリスマス・夏祭りの園児の参加を、子どもの成長を感じることができる一場面として捉え、うれしい気持ちになっているはず。」と回答していた。

つまり、B 病院を除く全ての調査協力者が、季節行事の実施が病院職員にとってポジティブに作用していると認識していることになり、特にネガティブな影響を指摘した回答はなかった。

3) 行事实施における課題と対応

行事实施における問題として「業務への負荷」「静ひつを必要とする患者への悪影響」「医療事故のリスク」があげられた。

「業務への負荷」については、「積極的に取り組みたいと思う気持ちはあるが、職員は多忙で、患

者は365日リハビリを実施しているため、催しを行う上で日時の都合をつけることが難しい。(B病院・看護部長)」「レクリエーションなどの心理面でのケアは看護の一部分ではあると思うが、レクリエーションを看護師やリハビリ職員が多忙な中で行うべきか疑問である。(D病院・看護部長)」と回答していた。この問題の対策として、時間の制約を回避するために、B病院では、患者や職員にとって時間の余裕があるリハビリ時間終了後(17:30頃)から夕食時間までに、C病院では、平日日中の、職員の時間の余裕のある時間帯(15:00～30分程度)に催しを行っていた。また、催し事を行うときに、準備などに時間を必要とするため、職員への負担を十分に考慮し、有志によって季節行事の催しが行われ、職員全体が強制的に関わることを避けていた。E病院では、平日の午後、患者の心身の配慮と職員の負担を考慮し、各病棟10分程度の催しを披露していた。

「静ひつを必要とする患者への悪影響」については、「容体が悪化している患者やその家族に、大きな音が聞こえることは申し訳ないし、病院業務の多忙さもあり、行事は縮小すべきではないかと思っている。(E病院・患者サービスを担当する看護師)」と、一部の入院患者へのネガティブな影響についても言及していた。この問題の対策として、C病院では、音楽の選曲にあたっては、華やかな音楽に抵抗を感じる患者がいる可能性を考慮し、患者の同意を得て催しを行っていた。

「医療事故のリスク」については、「病院で行われるイベントは、安全面や管理面において保健施設のように実施するわけにいかないため、スタッフからの提案に対して管理面で制約が入る。(C病院の看護部長)」と保健施設との違いに言及していた。「行事の催しを提供することで、同時にケア担当者数が減少するため、医療事故を誘発させる可能性が高くなることは否めない。事故を起こしてしまえば全てが台無しになる。マンパワーは

重要と考えている。(E病院の看護部長)」と回答していた。この問題の対策の一環として、E病院では、行事に向けて十分な話し合いの機会や準備期間を設けることや、行事の日は、人員を増加するという配慮が行われていた。また、F病院では、展示物が患者のリハビリテーションの妨げになるため、設置場所を考慮していた。

今後の季節行事についての取り組みに対しては、A病院では、個々の情報を持ち合わせて実施されたイベントの反省や、他の病院から入職した職員からの意見などを参考にしていた。E病院では、行われた催しに対する職員へのアンケート調査、F病院では、年に1回患者や家族に院内のレクリエーションや催し事を含むアンケート調査を実施していた。

入院中の患者の苦情等を受け付ける手立てはすべての病院が配慮しているし、退院する患者に対して病院が提供したサービスについて一般的な満足度を尋ねることはある。しかし、患者・家族に対して、季節行事に関する評価を求めている病院はなかった。その一方で、季節行事に対して苦情が寄せられたことがあると述べた病院もなかった。

3. 患者の季節行事に対する一般的評価

入院患者あるいはその家族を対象とした、季節行事に関する調査に回答した72名中、本人または家族が入院したことがある者は68名であった。さらに、本人または家族が季節行事に遭遇した者(有効回答者数)は18名(有効回答率25%)であった。18名の内訳は、男性4名(22%)、女性14名(78%)であった。年齢構成は、50代2名(11%)、60代・70代7名(39%)、80代・90代それぞれ1名(6%)であった。

本人または家族が遭遇した季節行事の内訳を表3に、季節行事に対する評価の分布を表4にまとめた。

表3 遭遇した季節行事

季節行事項目	クリスマス	七夕	夏祭り	正月	ひなまつり	節分	端午の節句	月見	誕生日
	12人	6人	1人	4人	2人	1人	2人	2人	2人
	67%	33%	6%	22%	11%	6%	11%	11%	11%

n=18 (複数回答)

表4 季節行事について感じたこと

感想	非常に楽しい	楽しい	どちらでもない	不快	非常に不快
	1人(6%)	14人(77%)	2人(11%)	1人(6%)	0人(0%)

n=18

遭遇した季節行事については、クリスマス、七夕、正月の順に多く、季節行事に対する評価に関しては、調査対象者の殆どが「楽しい」と感じていたが、「不快」と感じていた対象者もいた。

Ⅳ. 考察

1. 療養病床を有する病院において提供される季節行事の現状

季節行事の実施状況については、催しとして、クリスマス、七夕、夏祭り、正月行事の順に多く行われていた。この結果は、クリスマスや七夕が、患者にとって参加しやすい催しで、肯定的な感情に導くためと考えられた。また、病院で季節行事を行うことは、患者にポジティブに働きかけ、精神面のケアとして有効であった。さらに、病院で提供される季節行事は、病院環境を十分に考慮した上で、独自に形作られていた。

歴史的に見れば新しい季節行事であるクリスマスは、調査対象の全ての病院で実施されていた。日本のクリスマスは一般に宗教色が希薄であり、厳粛さを欠き、主として華やかで明るいイメージを伴っていると思われる。そうであるとすれば、このようなクリスマスに対する肯定的な印象が、患者や職員の感情をポジティブな方向に導く効果があるのではないかとと思われる。また患者は、ク

リスマスが年末に行われることから、一年の区切りを感じることができる。このことも、行事に対する評価を肯定的にしているかもしれない。

七夕については、装飾の美しさだけでなく、短冊に願い事を書くことや、短冊を笹につけることが、患者主体のリハビリテーション・レクリエーションとしての役割があると思われる。更に、患者が書いた願い事を職員が目にすることは、職員は患者の思いを感じ取ることができ、七夕行事が、患者－職員の心の交流をもたらしていると考えられる。

病院で行われている夏祭りは、櫓を建て、ヨーヨー釣りや盆踊りを行うなど、病院職員が育った環境で目にしている光景を催しに反映させ、夏祭りの肯定的な思い出や経験を踏まえて行われているようである。夏祭りの雰囲気や、夏祭りらしさを演出し、更に患者・家族の反応を感じ取り、病院において独自の夏祭りの形を作っていると考えられる。夏祭りが、クリスマス会や七夕行事に比べて実施率が低い理由は、夏祭りは賑やかで準備が大変な上に、入院患者の多くが参加することのできる演出が難しいからではないと思われる。

お正月については、自宅に外泊することが困難で、家族と過ごすことができない患者にとって、新年を迎える雰囲気を味わうことは大切なことであろう。お餅に似たものを食べることや、廊下を

通るとお正月らしい飾りを目にしたりすることは、精神面を支えるケアや環境作りとして重要であると思われる。

ひなまつりについては、調査病院のうち2カ所で「病院環境を彩る装飾」として行われている。ひな人形の段飾りは美しく、殺風景な病院環境を彩り、季節感を表現できると考えられる。

節分行事について、調査対象の病院で行われていない理由は、季節行事の現状においても言及しているが、「感染予防対策」によるものである。病院で季節行事を行う上で非常に重要な対策であり、優先されるべき医療行為の表れと考えられる。

病院で行われる誕生日行事の多くは、職員が手作りの誕生日カードをプレゼントすることである。誕生日は、皆が主役になれる特別な行事であり（井上・サントリー不易流行研究所，1993），家族や友人と共に祝うことが多い。家族から離れて生活している入院患者にとって、誕生日行事を病院で行うことも、精神的ケアとして有益であると思われる。また、病院で個人的な特別な行事を祝って貰うことは、より一層患者に喜んでもらえるサービスの一環であると思われる。しかし、手作りで誕生日カードを作成することや、誕生日会の開催は、患者一人一人の対応となるため、職員の負担になることが予測され、継続が難しい現状がある。このような背景が、多くの病院で誕生日行事が行われていない理由と考えられる。

2. 病院職員の季節行事に対する評価

長期療養を必要とする患者のために行われる季節行事は、職員にとっても、意欲向上に繋がるなどの肯定的作用があることが示唆された。

季節行事の背景には歴史の深淺があり、宗教的な意味も多様であろう。しかし、大多数の患者や職員にとって、季節行事は歴史的背景、宗教的な思いを伴うものではないであろう。この点で、患者と職員の感情面での季節行事の受け止め方に大

きな違いはないと考えられる。病院で行われる季節行事は、患者にとっては、病院職員が、自分達を元気づけようとしている意図が明瞭に認識できるものであり、そのことが患者に肯定的な思いをもたらししている可能性がある。また、職員が、そのような患者の感情によって季節行事への動機づけを誘発されていると考えれば、両者の間には肯定的な相互作用が生まれていると考えてよいであろう。

一方、季節行事の実施は、看護業務への干渉、医療事故や感染リスク、騒音への懸念が発生する。これらは、患者や職員に悪影響を及ぼすため、催しを行う方法、実施場所、時間の調整が非常に重要である。実際に全ての病院で配慮されている対策であるが、病院の特性を踏まえ、情報交換を行いながら、常に検討すべきだろう。

3. 患者の季節行事に対する一般的評価

季節行事に遭遇した患者やその家族のほとんどが行事を肯定的に評価していたが、不快だと感じた者も皆無ではなかった。この結果は、Matsushimaら（2007）の結果とよく一致している。多くの人が病院での季節行事を行うことを肯定的な感情で捉えているが、行われている行事に対して否定的な感情を抱く患者が少ないながらもいる。また、調査の結果より得た「季節行事に対して苦情を聞いたことがない。」という、病院職員の体験とは異なっている。これは病院の医療行為に対して不平や不満を言いにくいという患者側の事情が反映されていると思われる。

季節行事は、特定の月日に毎年繰り返して行われる行事や儀礼を指している。生活に一年間のリズムを作り、人びとに季節を感じさせ、また思い起こさせる（福田ら，2012）。療養病床における季節行事は、心身の健康や社会生活を阻害されている入院患者に対して、貴重な時間や環境を入院患者に提供するものと思われる。このことは、季節行

事の実施が入院患者のQOLを高め、結果的に健康の回復を促進する可能性を示唆するものと思われる。さらに、入院患者の行事への参加にはリハビリテーションの機能もあり、季節行事体験を通じて在宅復帰への誘因にもなると推察される。

以上より、病院で行われる季節行事が、季節感を味わい、和みの環境を提供し、患者同士、職員と患者との交流を促進する機会をもたらす、さらに退院－在宅生活への励みをもたらす意図で行われていた。それらを体験した患者あるいはその家族は、その体験を肯定的に受け止めていることが示唆された。

V. 本研究の限界と今後の課題

本研究結果は、療養病床における季節行事の実施が、入院患者にとって、概ねポジティブな機能を果たしていることを示している。また、病院における季節行事実施は、患者へのサービスに留まらず、職員の連帯感を高めるなど、病院の機能にとってプラスの効果もありそうに思われる。

ただし本研究はあくまでも調査協力者となった病院職員の回答に基づくものであり、個々の職員や入院患者が直接に体験した行事に対する評価を元にしたものではない。従って考察も、限定された結果に基づくものであり、本研究の結果を過度に一般化することには慎重である必要がある。実施の仕方によっては、医療事故、感染拡大、騒音の点において、事例は報告されていないものの、患者に悪影響を及ぼす可能性もあることは否定できない。すべての患者が季節行事を肯定的に受け入れているわけではないこともあり、季節行事の実施はすべて良いことであると単純に結論することは危険である。季節行事の実施に当たっては、それぞれの行事がもつ特性に留意し、欠点を除去しつつ長所を活かす方法を積極的に検討するべきであろう。

VI. 結論

長期療養を必要とする病院にとっては、心身両面で入院患者のQOLを向上させる病院空間の創造が大きな課題である。季節行事は、患者のQOLを向上させるための病院の取り組みの一環として実施されていると考えられる。季節行事が患者側から肯定的に評価されるだけでなく、病院職員に対してもポジティブな効果を持つとすれば、今回の調査結果は、病院にとって、季節行事の積極的な実施を動機づけるものであろう。

フロレンス・ナイチンゲール『看護の覚え書』には、「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさなどを適切に整え、これらを活かして用いること、また食事内容を適切に選択し適切に与えること、こういったことのすべてを、患者の生命力の消耗を最小にするように整えること。」と述べられている(Nightingale, 1860)。いま、ナイチンゲールが枚举したことがらを「環境」の一語で置き換えるとすれば、看護師を始めとする医療従事者は、患者を取り巻く環境を適切に維持、向上させることのできる唯一の担い手であることを十分認識して、季節行事の企画・実施に当たる必要があるだろう。

なお、本研究は、著者の放送大学卒業研究(2016年)の一部をまとめたものである。

卒業研究の指導、ならびに本論文の作成において終始適切なお助言をいただいた、神戸大学名誉教授 宇津木成介先生に、深甚の謝意を表します。また、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

文献

荒木奈緒・佐藤洋子(2012). 小児の入院環境に影響を及ぼす要因の検討 小児保健研究, 71(6), 844-850

福田アジオ・菊池健策・山崎祐子・常光徹・福原敏男
(2012). 知っておきたい日本の年中行事辞典 吉
川弘文館

五十嵐尚子・宮下光令(2017). データで見る日本の
緩和ケアの現状 志真泰夫・恒藤 暁・細川豊歯・宮
下光令・山崎章郎(編)ホスピス緩和ケア白書2017
小児緩和ケアの現状と展望 青海社, 78-107

井上忠志・サントリー不易流行研究所(1993). 現代
家庭の年中行事 講談社

厚生労働省(2015). 入院医療(その1) 診療報酬に
おける機能に応じた病床の分類
〈www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000084388.pdf〉(2018年6月
検索)

厚生労働省(2016a). 医療施設(動態)調査・病院報告
の概況 II 病院報告 3平均在院日数(1) 病床の種
別別にみた平均在院日数
〈https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/16/dl/02_02.pdf〉(2018年9月検索)

厚生労働省(2016b). 医療施設(動態)調査・病院報告
の概況 調査の概要 4用語の説明
〈www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/16/dl/gaikyo.pdf〉(2018年5月検索)

Matsushima T, Akabayashi A, Slingsby BT, &
Nishitateno K. (2007). Evaluation of a program
to celebrate seasonal events for Japanese hospice
patients. Palliat Support Care. 5 (3), 251-254.

森山千賀子・土井晶子(2009). 日本の高齢者施設に
おける余暇活動の現状と課題－QOLの向上に効果
的な余暇活動とは－ 白梅学園大学・短期大学紀
要, 45, 49-67

Nightingale, F (1860). Notes on nursing: what it
is, and what it is not. (New edition, revised and
enlarged) Harrison, 59, Pall Mall. 湯楨ます・薄
井坦子他訳(2011). 看護覚え書—看護であること
看護でないこと 改訳第7版 現代社

政府統計の総合窓口 e-Stat (2018). 人口動態調査

人口動態統計 確定数 死亡 5-5死亡の場所別に
みた年次別死亡数・百分率
〈<https://www.e-stat.go.jp>〉(2018年9月検索)

